

国際刑事矯正財団コロキウムの歓迎会に協力

令和7年10月7日、東京昭島市の国際法務総合センターにおいて開催された国際刑事矯正財団(International Penal and Penitentiary Foundation: IPPF)コロキウムが開催され、これに伴って歓迎セレブションが立川市のホテルで行われました。この歓迎セレブションに、アジ研からの要請により日本の保護司の紹介を兼ねたおもてなしの依頼がありました。このセレブションの出席者は50名程度のことから、石崎会長外3名、お琴の演奏によるおもてなしとして3名が協力させていただきました。

IPPFとは、犯罪防止・刑事司法に関する研究や出版活動などを行うとともに、概ね2年に一度コロキウム(専門家会合)を各国で開催してきました。今回の IPPF コロキウムは、アジ研において開催され、約 20か国から犯罪防止・犯罪者処遇の専門家が参加し、「再犯防止国連準則を活用した再犯防止の促進」をテーマに10月7日から同月10日まで開催されました。

以下、参考として、法務省ホームページのフォトニュースからの引用です。

このセレブションに先立って国際法務総合センターで行われた開会式で、高村法務副大臣(当時)が法務省を代表した挨拶で、再犯防止は刑事司法の主要な課題の一つであり、国際的にも高い関心が寄せられていることを強調しました。また、我が国が令和3(2021)年にホストした京都コングレスの成果として策定を主導した「再犯防止国連準則(京都モデルストラテジー)」が本年5月の国際犯罪防止刑事司法委員会(CCPCJ)で採択されたことに触れ、同準則が国連総会で採択された暁には、国連薬物・犯罪事務所(UNODC)と連携するとともに、アジ研の活動を通じてその普及と活用促進に取り組んでいくことを表明しました。



IPPF コロキウムの参加者



お琴の演奏



保護司紹介コーナー